

<研究ノート>

視聴覚翻訳におけるユーモアの訳し方

結束性の観点から

若尾拓哉

(立教大学院異文化コミュニケーション研究科博士前期課程)

1. はじめに

グローバル化に伴い世界の情報が日本に入ることが増えてきており、情報のやり取りの重要性が高まっている。情報にはニュース、映画、ドラマなど様々なものが含まれ、これらを世界から日本に取り入れるために通訳翻訳を欠かすことはできないだろう。その際に重要な役割を果たすのが、視聴覚翻訳 (audiovisual translation=AVT) である。AVT は映像と音声のある情報を翻訳することを指し、世界中で広く利用されているものである。グローバル化が進む現代において情報のやり取りに関わる AVT の需要は今後ますます高くなるだろう。

AVT には他の翻訳とは異なる点がいくつもある。例えば映像や音声との整合性を考慮することや、字数や時間などの制限があるため、その制限の中で翻訳をしなければならない。また AVT では oral、written、visual といった複数のコミュニケーション・チャンネルが共存しているため、他の一般的な翻訳とは異なるのである (Lorenzo, Pereira & Xoubanova 2003 ; 稲生, 2004)。そのため AVT では ST (起点テキスト) と TT (目標テキスト) の間に差があることが予想される。そこで、本研究では特にユーモアの翻訳における「結束性」という観点から ST (英語)、TT1 (吹き替え)、TT2 (字幕) を比較分析し、3 つのテキストの特徴を抽出することで、吹き替えや字幕が制限の中でどのように構成されているのかを探る。

1.1 研究目的

通訳者や翻訳者を悩ませるものの 1 つにユーモアがある。ユーモアを正しく理解するには深い背景知識が必要であるために、訳出するのが難しいと言われているのだろう。それにユーモア表現を理解できたとしても、TT にうまく訳せるとは限らない。というのも、ST を TT にそのまま訳しただけでは ST と同等のユーモアの効果を TT で表現できないからである。時間をかければ説明することはできるかもしれないが、ユーモアの説明は翻訳ではない。このようなことからユーモアを翻訳するのが難しいと推察できる。では、字数や時間に制限のある AVT でユーモアを翻訳しなければならない場合は、一体どうなるのだろうか。制限があるため詳細に説明することが許されない

AVTでは、ユーモアを翻訳できないこともあるだろう。しかし、そのような制限の中で翻訳行為をしているからこそ、翻訳者の工夫がはっきりと見ることができると考えられる。そこで本研究では、ユーモアが吹き替えと字幕の中でどのように訳出されているのかを考察する。それを結束性の観点から分析することで、ユーモア翻訳研究に一考察を加えることを試みる。

マンデイ (2009) は、AVT は翻訳研究の中でも比較的新しく研究未開拓の分野で、「視聴覚翻訳は、多くの記述的研究及び創造的実践の場である」と述べている (マンデイ, 2009, p. 319)。また、このような「映像翻訳についての研究は翻訳理論の中でも注目され始めた領域であり、特に 90 年代以降研究成果が徐々に積み重ねられてきている」(藤濤、2007, p. 116) とされる。しかし、この分野で日本語と英語を比較した研究はまだ少ない。そのため、AVT という分野で日英語比較の研究を試みることには意義があると考えられる。本研究を通して、ユーモアがどう翻訳され、それが吹き替えと字幕でどのように構成されているか明らかになれば、今後 AVT に関わる者にとって訳出の指針になるのではないだろうか。

2. 先行研究

2.1 AVT

AVT は視聴覚翻訳や映像翻訳などいくつかの呼び方があるが (マンデイ, 2009)、ここでは「AVT」として呼ぶことにする。Gambier (2003) は“dominant”と“challenging”という 2 つに AVT を分類している。前者が①字幕、②吹き替え、③逐次通訳、④同時通訳、⑤ボイスオーバー、⑥解説、⑦サイトラ、⑧多言語制作で、後者が①助成金等の申請の際に必要なシナリオの荒訳、②聴覚障害者向けの字幕 (クローズド・キャプション)、③リアルタイムでつける字幕、④オペラなどの字幕、⑤視覚障害者向けの音声描写である (Gambier, 2003; 稲生, 2004)。ここから AVT はかなり広い概念を指していることが分かる。ここで全てを扱うことはできないので、本研究では吹き替えと字幕のみを考察の対象とする。

字幕翻訳の制約に関しては、Hatim & Mason (1997) が 4 つに分類している。それが①話し言葉から書き言葉へのシフトで、話し言葉の特長が TT で反映されないこと、②意味を伝える媒体やチャネルの要素、③②の結果、ST の内容が減ること、④映像との整合性である (Hatim & Mason, 1997)。字幕翻訳では、このような制約の中で訳出しなければならないのである。

日本で字幕が初めて現れたのは、昭和六年 (1931 年) の『モロッコ』という映画からである (清水, 1992, p. 10; 戸田, 1994, p. 25)。日本でも字幕翻訳に関する本や論文は比較的多く、太田 (1939.5)、清水 (1992)、戸田 (1994) などがそれにあたる。字幕翻訳は、「観客にわかる字幕」(清水, 1992, p. 72) であることや、「字幕はチラッと目を走らせただけで、なんなく内容のつかめる文章」(戸田, 1994, p. 150) であることが求められているのが特徴的だと言えるだろう。

2.3 結束性

ハリデイ・ハサン (1997) の「結束性」については、3章の分析方法で詳しく述べる。ここでは結束性と翻訳に関する研究について簡単にまとめる。Baker (1992)は *equivalence* を様々な視点から捉えている中で、「結束性」を *textual equivalence* の1つとして扱っている。Kachroo (1984)は、翻訳では文を越えた要素を考慮しなければならず、その要素の1つとして *textual cohesion* を挙げていた。Blum-Kulka (1986)は翻訳における結束性と一貫性のシフトについて扱っており、結束性はテキスト間にある顕在的な関係で、一貫性はテキスト間にある意味の潜在的な関係だとしている。様々な視点から結束性と翻訳に関する研究が行われているが、日本でも Katori (2006)が同じように研究を行っている。彼の新聞記事における日英語の結束性についての研究はとても興味深い。このように国内外で結束性と翻訳の研究が行われているが、ユーモアに着目したものはまだ少ない。

2.4 ユーモア

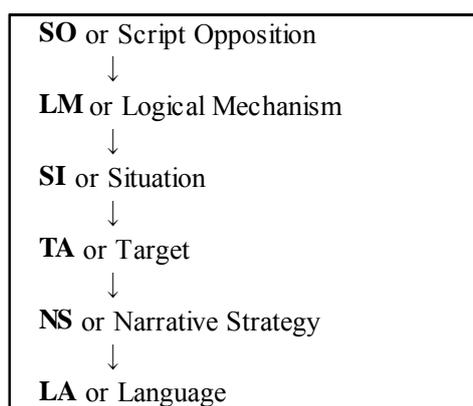
笑いやユーモアの研究は古くから幅広い分野で行われてきており、アリストテレスの時代から行われてきている (井上, 2004, p. 3; 大島, 2006, p. 239)。現在では国際ユーモア学会 (International Society for Humor Studies) や日本笑い学会 (The Japan Society for Laughter and Humor Studies) などが設立されており、笑いやユーモアが「ユーモア学」として研究されるまでに至っている。ここでは全てを扱いきれないので、先行研究としてユーモアと翻訳に関わる重要なものだけを挙げることにする。

ユーモア理論として有名なものは「優越の理論」、「解放の理論」、「不調和の理論」などがあるが、詳しくは北 (2009) が説明しているのでそちらを参照されたい。ここで扱いたいのは、Raskin (1985)の SSTH と Attardo & Raskin (1991)の GTVH という2つの理論である。この2つを選んだのは、これらがユーモア研究に大きな影響を与えたからである。以下、北 (2009) を参考にしてユーモア研究をまとめる。

Raskin (1985)の *Semantic Script Theory of Humor (SSTH)*はユーモア理論に言語学の知見を初めて応用したものであり、新しい試みであった。これまでのユーモア研究は直観に頼っていたり、決定的な理論が欠如していたりしていたが、不調和の理論に言語学という学問に裏付けされた「言葉」を導入したことが重要であった (北, 2009)。この理論において大切なことは、「スクリプト」という概念を用いていることである。この「スクリプト」は「レストラン」の例で説明すると分かりやすい。例えば、「レストランに行った」と言えば文字通りの意味ではなく、レストランに行き、食事を注文し、それを食べ、お会計をしてから帰った、というようなことを想起する。ラスキンは、このようなある表現からあるスクリプトを想起することをユーモアにも当てはめている。つまり、スクリプトから想起していることに「不調和」や「ズレ」がある場合にユーモアが起こり得ると説明しているのだ。こうして、ユーモアを研究する方法が1つできたのである。Asimakoulas (2004)はこの理論を分析に応用しており、そのように

してユーモア翻訳について論じている研究もある。

しかし、ラスキンの SSTH には批判も多く、完全なものとは言えない。例えば、分析した例がジョークのみであったことや、根幹であるスクリプト対立が一般化・抽象化され過ぎているという点が批判されている(北, 2009)。そこで現れたのが Attardo & Raskin (1991)の General Theory of Verbal Humor (GTVH)である。GTVH では SSTH の根幹であったスクリプト対立を維持しながら、6 つの変数を規定している。GTVH を図で表したものを Attardo (2002)から引用する。



Hierarchical organization of the Knowledge Resources (Attardo, 2002, p. 183)

この図は上から重要度の高い変数となっている。SSTH の根幹であるスクリプト対立が最も重要な位置を占めているため、GTVH と SSTH の関係が分かるだろう。この 6 つの変数を簡単に説明すると、Script Opposition は「ユーモアの核となるスクリプト対立」、Logical Mechanism は「ユーモアを導く(屁)理屈」、Situation は「テキストに描かれている内容・状況」、Target は「ユーモアの標的となる対象」、Narrative Strategy は「テキスト全体を組み立てている構造」、Language は「テキストの表面的な言葉遣いそのもの」である(北, 2009, p. 109)。これらの変数を組み合わせながら用いることで、ユーモアを分析するのだ。

しかし、GTVH に対する批判もいくつかある。例えば、この理論は不調和の理論に基づいているが、ユーモアは楽しく面白いものであるため「不調和」ではないとするもの(Latta, 1999)や、用語の定義の甘さを否定したもの(Ritchie, 2004)などである。ここでは、中でも Simpson (2003)の批判に注目したい。Simpson は風刺の分析を通して SSTH も GTVH も不十分であると批判し、文脈を切り離してテキストを見るのではなく、文脈を含めた総体としてテキストを考えなければならないという(Simpson, 2003; 北, 2009, pp. 111-112)。ユーモア研究に多大な影響を与えたこの 2 つの理論も、このように多くの批判をされていることが分かる。そこで本研究では Simpson の批判を考慮し、文脈を含めた総体としてテキスト分析を行うために「結束性」という概念を用いる。結束性の観点から分析することで、総体とまではいかななくても文レベルで文脈

を考慮しながらユーモアを分析することができる考えたからである。つまり、結束性というこれまでにない観点からユーモア翻訳を分析・考察することで、視聴覚翻訳研究とユーモア研究に一考察を加えることが本研究の目的である。

3. 研究方法

ホームコメディードラマの“friends”を事例に、ユーモアがどのように訳されているかに注目する。このドラマを対象に選んだ理由は、会話が中心であり、言語によるユーモア表現が多いためである。具体的な分析では、ST（英語）、TT1（吹き替え）、TT2（字幕）を結束性の観点から比較する。

ユーモアを分析する際に問題になるのが、何をユーモアと定義するかである。ここではコメディを用いるため、ユーモア表現やユーモアであると考えられる行動の後には笑い声が入る。本論で注目するのが言語によるユーモア（Verbal Humor）であるので、暫定的に「笑い声が入る前の発話」と定義したい。また GTVH も考慮し、6つの分類に当てはまる場合もユーモアとみなす。つまり、「笑いが入る前の発話」と GTVH の6分類という2つの観点からユーモアを定義し、考察する。

3.1 結束性

結束性はテキスト性を作り出す手段のことであり、ハリデイ・ハサン（1997）が提唱したものである。結束性は文法的結束性と語彙的結束性の2種類に分類することができ、前者に含まれるのが指示、代用、省略、接続で、後者に含まれるのが語彙的結束性やコロケーションである。簡単にまとめると、指示、代用、省略、接続、語彙的結束性という5つに分類できる。一方ハリデー（2001）は結束性を照応、省略、接続、語彙的結束性の4つに分類している。しかし、省略の中に代用を含むと言っているためハリデイ・ハサン（1997）とほぼ同じことを主張していると言えるだろう。そこで本論ではより詳細に分類できると考えられるハリデイ・ハサン（1997）の5つの結束性を用いて分析を試みる。

彼らは結束性について以下のように述べている。

結束性が生じるのは、談話のある要素の解釈（INTERPRETATION）が別の要素の解釈に依存する場合である。一方を効果的に解読するためには他方に頼らなければならないという意味で、一方は他方を前提（PRESUPPOSE）とする。こういうことが生じるとき、結束関係が成立する。その結果、前提語と被前提語という2つの要素が、少なくとも潜在的には、統合されて1つのテキストになるのである。（ハリデイ・ハサン，1997，p. 5）[強調原文]

このことを分かりやすく説明するためにユーモアと結束性を扱っている部分も引用する。

Time flies.

—You can't; they fly too quickly.

(光陰矢のごとし／ハエの飛ぶ速度を測ってみろ。

——だめだよ。飛び方が速すぎるもの) (ハリデイ・ハサン, 1997, p. 5)

この例を結束性の観点から見ると、**You can't** という省略、**they** という指示、**fly** の語彙的結束性が見られる。第2文の **they** を解釈するには前文の **flies** を「ハエ」と解釈するしかない。つまり、第2文から要求される前提を満たすために、第1文を「ハエの飛ぶ速度を測ってみろ」の意味で解釈しなければならないのである。そのように2つの解釈ができることにこの例のユーモアがある。このことが結束性の全てではないが、2つの要素の「つながり」に注目するものであることが分かるだろう。

以下では、このような結束性に着目して ST (原文)、TT1 (吹き替え)、TT2 (字幕) を比較することで、ST と TT の結束性の差は何か、TT は ST より少ない情報の中でどのように結束性のあるテキストを構成しているのかを考察する。

4. 分析

以上をふまえて、実際にテキストの分析を試みる。今回分析する事例はホームコメディードラマの **friends** の第23話「ベビー誕生！」であるが、まず簡単に登場人物とストーリーについて述べたい。“**friends**”にはレイチェル、モニカ、フィービーという女性が3人、ジョーイ、チャンドラー、ロスという男性の3人で、合計6人が中心に繰り広げるコメディである。この中で女性のレイチェルとモニカ、男性のジョーイとチャンドラーがルームシェアをしており、2人ずつで向かいの部屋に暮らしている。ロスはモニカの兄で、6人の中で唯一結婚していたが、ある日妻のキャロルがレズであることが分かり離婚してしまう。そしてキャロルは同じレズのスーザンと暮らし始めるのだが、お腹にはロスの子供を妊娠している。今回扱う第23話「ベビー誕生！」ではその子が産まれるため、病院を舞台に物語が展開しているのである。

簡単に登場人物とストーリーについて述べたので、ここからは実際の分析に移る。先行研究で既に述べたが、**Simpson (2003)**の批判を考慮し、ユーモアを分析する際には文脈を考慮しながら結束性に着目する。そのため、具体例は長めに引用し、ストーリーの流れについても簡単に触れることにする。ただし、ハリデイ・ハサン (1997) の結束性という概念は、英語の結束性に関するものである。そのため、日本語のテキスト分析をする際にハリデイ・ハサン (1997) の分類を無理矢理当てはめる必要はないだろう (香取, 2009, p. 56)。本論の分析では英語の結束性のみを対象とし、それが日本語にどう訳されているかを考察することとする。

4.1 「指示」

実際に結束性の観点から分析を行う。ここでは、AVTにおいて原文の結束構造を訳

出すことができているのかに注目する。引用 1 は第 23 話の始まりの場面で、ロスが子供が生まれると聞いて病院にやってきたのに、肝心の妊婦が病院に現れないことに苛立っている。この一連の発話でユーモアと考えられるのは、チャンドラー (Ch) の I used to have that bumper sticker. である。

引用 1

ST	TT1(吹き替え)	TT2(字幕)
Ro: God, I don't believe this! She could be giving birth in the cab!	どうしたらいいんだよ キャロルはタクシーの中で産んでるかもしれないよ	タクシーの中で出産中かも
Ra: Relax. It's only \$2 for the first contraction...	大丈夫よ 陣痛の初乗りはたった2ドルだし	陣痛の初乗りは2ドルで そのあと1回ごとに50セント...
...and then 50 cents for each additional contraction.	そのあと陣痛1回ごとに50セントが加算されるだけで...	
What, it's okay when Chandler's does it?	チャンドラーだっていつも冗談言うじゃない!	チャンドラーは許すくせに
Ch: You have to pick your moments.	TPO考えなきゃ	冗談にも時と場合が
	[中略]	
Ro: Where have you been?	あー来た来た もうどこにいたんだ?	何してた?
Ca: We stopped at the gift shop.	ちょっと買い物してたのよ	買い物よ
Ro: Oh, gift? What?	何買ってたんだ?	何を?
Ca: I wanted a stuffed animal. Susan wanted a <u>Chunky</u> .	私はこのぬいぐるみでスーザンはチャンキーチョコ買ったの	ぬいぐるみとチョコ
Ro: Susan wanted a-- You're having a baby! You don't stop for <u>Chunkies</u> !	へー スーザンはチョコをね 赤ん坊が産まれるんだぞ チョコなんて買ってる場合じゃないだろ	出産前に チョコ買う暇があるか
Ch: <u>I used to have that bumper sticker.</u>	チャンキーのステッカー好きだったよな	チョコっとなら
You see what I mean?	ははっ これがTPOだ	時と場合だ

bumper sticker とはチャンキーについてくるステッカーのことで、ある時そのステッカーを車のバンパーにつけるのが流行っていたという。それがこのユーモアで用いられている。この場面では妊婦のキャロルが遅れて病院にやってきた理由がぬいぐるみとチャンキーというチョコを買ってきたことだと知り、夫のロスが少し怒っている。そこで出てきたのが、I used to have that bumper sticker.なのだが、この表現を GTVH の観点から見ると Target に関わると考えられるだろう。チョコを買ってきたことに怒っているという状況であるのに、チャンドラーは bumper sticker に話の「対象」を変化させている。そこにスクリプトの対立があり、また笑い声も入っているため、この表現がユーモアだと判断できる。

このユーモアがどう訳されているかに注目して見ると、吹き替えと字幕で差があることに気がつく。さらに、原文の **that** は結束性の「指示」に関わるが、このような指示にあたる表現が日本語訳にはない。これはどうしてだろうか。吹き替えの「チャンキーのステッカー」という訳では、原文にはないが吹き替えの中で「チャンキー」という言葉を繰り返している。また字幕の「チョコっとなら」でも、原文にはないが前文までに出てきた「チョコ」を繰り返していることが分かる。ここから言えるのは、日本語訳では原文と異なるタイプの結束性を用いているということである。ただ字幕では、すぐ前にロスが言った「チョコ買う暇があるか」に対して「チョコっとなら」という訳になっているため、指示している対象が原文と異なっている。それに、チャンキーという情報は字幕には現れない。これらから日本語訳では原文と異なる結束性を用いられていることと、吹き替えと字幕でも結束性に差があることが分かった。

ここでもう1点注目したいのが、**You have to pick your moments.** というユーモアである。この場面でレイチェルはユーモアを言ったのだが、状況に不適切なユーモアであったために誰も笑ってくれなかった。そこでチャンドラーが **You have to pick your moments.** と言っており、この後に笑い声が入っている。そこでこの発話を GTVH の観点から見ると、レイチェルがユーモアに失敗した「状況」を馬鹿にしていると考えられるため、**Situation** と関わる。

このユーモアがどのように訳されているのかに注目してみると、吹き替えが「TPO 考えなきゃ」、字幕が「冗談にも時と場合が」となっていることが分かる。原文にはハリデイ・ハサン (1997) の英語の結束性に当たるものはないのだが、日本語訳を見てみると興味深いことに気がつく。それは、「TPO」と「時と場合」という表現が最後に繰り返されていることである。原文の **You see what I mean?** にこれらの訳が当てられているのだが、ここでも原文と日本語訳で異なる結束性を用いていることが分かる。英語の結束性とは異なるタイプの結束性を用いることで、制限の中でも一貫性のあるテキストを構成していると言えるのではないだろうか。

4.2 「代用」

「代用」の例を見てみよう。この場面では、妊婦が分娩室に入ったためにモニカとチャンドラーの2人が待合室にいる。そこでチャンドラーが眠たそうに目を閉じている時に行われた会話である。

引用 2

ST	TT1(吹き替え)	TT2(字幕)
M: I want a baby!	私も赤ちゃん欲しい	子供が欲しい
Ch: <u>Not tonight</u> , honey. I got an early day tommorrow.	今夜はダメだよハニー 明日の朝早いんだ	今夜はダメだ 明日早い
M: Get up. Come on, let's get some coffee.	起きてよ コーヒーでも飲みましょ	起きて コーヒーを

この発話は、GTVH の Logical Mechanism と関わっているためにユーモアだと判断できる。2 人は付き合っているわけでもないのに、チャンドラーはモニカの発言を違う意味で受け取っている。「(屁) 理屈」でそのように解釈して Not tonight とわざと言っているために、Logical Mechanism と関わっているのだ。

このユーモアの訳を見てみると、どちらも「今夜はダメ」となっている。チャンドラーが違う意味で解釈していることを明示的に訳出しているので、原文をうまく再現できていると言える。Not はモダリティーを表す節の代用に当たるので、この例から「代用」を明示的に訳すことができていると言えるだろう (ハリデイ・ハサン, 1997, pp.174-175)。

4.3 「省略」

ここでは少し特殊な例を挙げる。これはフィービーが病院の待合室でギターの弾き語りをしている場面である。吹き替えはされていないため、原文と字幕のみになっている。

引用 3

ST	TT1(吹き替え)	TT2(字幕)
<i>P: They're tiny and chubby And so sweet to touch</i>		丸くてかわいい赤ん坊
<i>And soon they'll grow up And resent you so much</i>		成長してすぐ反抗期
<i>Now they're yelling at you And you don't know why</i>		わけもなく 親をどなりちらす
<i>And you cry and you cry And you cry</i>		親はただ泣くだけ
<i>And you cry and you cry And you cry</i>		泣いて泣いて泣いて…

病院で歌うのにはふさわしくない歌詞であるため、この曲を歌っている時には全体的に笑い声が入っていた。この一連の歌詞がユーモアだと判断できるのは、GTVH の Narrative Strategy と Language に関わっていると考えられるからである。「テキスト全体を組み立てている構造」が And の繰り返しであり、「テキストの表面的な言葉遣い」が touch、much、why、cry という脚韻であるのだ。

字幕を見てみると、why という「省略」が「わけもなく」と訳されていることが分かる。正しくは why の後に they're yelling at you が省略されているのだが、「理由」の意味で訳しているようである。字数制限を考慮して省略されているものを正確には訳さず、単純化したのだと考えられる。ここから、字数制限を守るために単純化している可能性があると言えるだろう。

4.4 「語彙的結束性」

では次に「語彙的結束性」の例を見てみよう。引用4は子供が生まれる直前の場面である。助産師であるヘルパーさんが分娩室にいる余計な人を部屋から出そうとしており、その発言に対するチャンドラーのユーモアである。

引用4

ST	TT1(吹き替え)	TT2(字幕)
H: All right. All right. There's too many people here! There's about to be one more!	ちょっと聞いて この部屋には人が多すぎる もうじきもう一人増えるしね	じき1人増えるし 人が多すぎるわ
So anybody who's not an ex-husband or <u>lesbian life partner</u> ...	だから元ご主人とレズビアンの子供以外の人	元ご主人と <u>レズのパートナー</u> 以外は出て
...out you go!	出てって	
Ra: Bye-bye!	わかったよ	
J: Good luck, you guys. Good luck!	頑張ってね	頑張れよ
Ch: Let me ask you, do you have to be Carol's <u>lesbian life partner</u> ?	ちょっと質問 ロスのホモセクシャル・ライフパートナーはだめ?	ロスのゲイ・パートナーも?
H: Out!	出てって	出て

引用4の発言がユーモアと判断できるのは、GTVHのLogical Mechanismと関わっていると考えられるからである。これまでの場面で本当のレズのパートナーがスーザンであることは明らかであるのに、チャンドラーはわざとこのような発言をしている。ヘルパーさんの言葉の上げ足をとるような「屁理屈」を使っているために、Logical Mechanismに当たる。

原文ではlesbian life partnerを2回繰り返しているのに「語彙的結束性」が用いられているのだが、日本語訳を見てみると原文との差が明らかにあることが分かる。それはLesbianという言葉が「ホモセクシャル」や「ゲイ」と訳されていることである。翻訳者が視聴者にとって分かりやすい訳であると判断したためにこのような訳になったのだと考えられるが、その正確な理由は分からない。この例から言えるのは、AVTでは原文が正確に訳されるとは限らない、ということである。字幕翻訳に関して、清水(1992)は「私たちスーパー字幕屋がいつも頭に置いているのは観客にわかる字幕をつくることで、原文を正確に翻訳することではない」と語っている(清水, 1992, p. 72)。このことは映像との整合性が重要な吹き替えにも当てはまるだろう。吹き替えも字幕も観客に分かるものでなければ意味がない。このような特徴のあるAVTでは、結束性も正確に訳されるとは限らないと言えるだろう。

もう1つ「語彙的結束性」の例を見てみよう。この例はキャロルの元夫であるロスと、彼女のレズ仲間であるスーザンが口論をしている場面である。妊娠しているキャ

ロルの前でロスとスーザンが軽い口論をしたために、キャロルから病室を出ていくように言われた後の会話である。

引用 5

ST	TT1(吹き替え)	TT2(字幕)
Ro: Oh, please! This is so your fault!	勘弁してくれよ 君のせいじゃないか	君のせいだ
S: How? How is this my fault?	何で? 何で私のせいなの?	どうして?
Ro: Look, <u>Carol never</u> threw me out of a room <u>before</u> you <u>came along</u> .	君に出会うまでキャロルは僕を部屋から追い出したりしなかった	キャロルは人が変わった
S: Yeah, there's a lot <u>Carol never did before I came</u>	そう 私に出会ってから初めてしたことは他にもあるのよ	新しい世界に 目覚めたからね

このスーザンの発言がユーモアだと判断できるのは、GTVH の Language に関わっていると考えられるからである。スーザンは、キャロルが彼らを部屋から追い出した理由をロスの発言と明らかに同じような表現を反復して使っているため「テキストの表面的な言葉遣いそのもの」に関わる。2人の発話を比べてみると以下ようになる。

(1) Look, Carol never threw me out of a room before you came along.

(2) Yeah, there's a lot Carol never did before I came along.

(1)と(2)の下線部が同じ表現を使っているところである。この before you/I came along という発話は同じ表現を反復して用いているため、ハリデイ・ハサン (1997) の語彙的結束性の中の「再叙」に当てはまる。同じ表現を繰り返すことで結束性を強めているのである。そうすることで、この表現の皮肉やユーモア効果も強くなっているのだろう。しかし、日本語訳にそのような反復によるユーモアは見当たらない。吹き替えでは原文をそのまま訳しただけに思えるが、それでも十分この表現の皮肉は伝わる。問題は字幕である。字幕は字数制限のためかなり情報を減らしているようで、「人が変わった」や「新しい世界に目覚めた」という明示的な訳になっている。しかし原文の反復構造を翻訳していないため、結束性が訳出されていないことが分かる。では、なぜこのような翻訳になったのだろうか。

これは Pym (2005)のいう明示化 (explicitation) と関わるだろう。Pym (2005)は明示化が行なわれるのは“risk-management”のためだと考えている。字幕では、キャロルが「(レズの) 新しい世界に目覚めた」という皮肉を明示することで、字数の制限を守りながらもユーモアを再現することに成功しており、視聴者から批判されるリスクを回避していると考えられる。このように AVT では原文にある結束構造をうまく訳出していなくても、明示化翻訳をすることでユーモアを訳しているのである。

4.5 「接続」

最後に「接続」の例を見てみよう。引用6はキャロルが子供を生む直前であるにも関わらず、出産に立ち会うべき元夫のロスとレズの恋人のスーザンがいないという場面である。

引用6

ST	TT1(吹き替え)	TT2(字幕)
Ca: Are they here yet?	ああ ねえ 2人は来た?	2人はどこなの?
Ra: Oh, no. Don't worry, we're gonna find them.	まだよ でも心配しないで みんなが今探してるわ	今 捜してるからね
And until we do, we are all here for you. Okay?	それに見つかるまで私たちが ついてるわよ いいわね?	2人が来るまでついてるわ
Ca: Okay.	分かった	
Ra: Okay?	大丈夫?	
Ca: Okay.	ええ	
Ra: Anyway, you were telling me about Paris. It seems wonderful!	じゃパリの話 聞かせて 楽しかったみたいね	じゃパリの話 聞かせて
Dr: There was this great little pastry shop right by my hotel--	本当よかったよ ホテルの近くに おいしいパン屋があったんだけど...	ホテルの近くに おいしいパン屋が...

この中でレイチェルの発言がユーモアだと判断できるのは、GTVHの Script Opposition と関わると考えられるからである。そこまで不安になっている妊婦を励ましているのに、突然医者と世間話しを始めているため「スクリプト対立」が起こっているのだ。

このユーモアには、Anyway という結束性における「接続」が用いられている。Anyway は「先行文を軽くあしらうことによって、それと結束していることを示している」(ハリデイ・ハサン, 1997, p. 354)。この日本語訳を見てみると、吹き替えも字幕も「じゃ」と訳されていることが分かる。この訳を見ると「接続」は訳されているように思えるが、その前にある And が字幕では訳出されていない。これはなぜだろうか。おそらく、ここでは Anyway がユーモアと関わることがその理由であるだろう。Anyway という言葉が Script Opposition を示す重要な役割を担っており、なくてはならない情報であるために訳に反映されたと考えられる。そのため、ユーモアとは関係のない And は訳されなかったのだろう。この例から、「接続」が発話の中で重要な役割を果たしている場合、訳される可能性があると言えるのではないだろうか。

5. 考察・今後の展望

以上、ハリデイ・ハサン(1997)の「結束性」の観点から分析をしてきた。ここでこれまでの分析をまとめたい。分析を通して、原文の結束性を日本語訳で再現することは難しいということが分かった。AVTという制限のある分野でユーモアを翻訳する

ことは予想通り難しいことだが、様々な方法でユーモアの翻訳をしていることが示唆された。例えば、結束性はうまく訳せないため、原文とは違うが日本語訳の中では結束関係のあるテキストを作っていること、「観客に分かる」翻訳をするために「正確」ではない訳をしていること、明示化して観客から批判されるリスクを回避していること、単純化して訳していること、情報の重要度が高い結束性は訳される可能性が高いことなどが分析から見えてきた。このように結束性の観点から文脈を考慮しながら分析・考察をすることで、これまでとは違う観点からのユーモア研究ができるのではないだろうか。

第23話「ベビー誕生！」の中で言語によるユーモアだと判断できたのは、笑い声の入った124例の中の91例であった。その中で結束性と関わっていると考えられるものは41例あり、それらを対象に分析を試みた。この41例が結束性の中でどのように分類されるかを示したのが表1である。

表1

指示	16例
代用	3例
省略	1例
接続	1例
語彙的結束性	24例

表1から分かるように、今回の分析した例の中ではユーモアの結束性に偏りがあった。最も多いのが語彙的結束性の24例、次に多いのが指示の16例であったので、この2つの結束性がユーモアと関わる可能性が高いと言えるのではないだろうか。今回の分析だけでは量的に不十分であるが、ユーモアと結束性の間にこのような関係がある可能性を示唆できたと考えている。さらに、原文、吹き替え、字幕という3つのテキストを比較して気がついたのは、同じ日本語訳でも吹き替えと字幕でそれぞれ結束性が微妙に異なっていたことである。このことは引用1と引用4で顕著に表れていた。このように今回の分析を通して、ユーモアの結束性の偏りと日本語訳間の微妙な違いがあることが判明した。

また、ここで分析対象とした41例の内、4例の翻訳がユーモアとして失敗していたと判断できた。数少ない失敗例の1つが、引用1で触れた「チョコっとなら」という字幕である。これをユーモアだと理解することはできても、原文のように笑えるものではないだろう。これはやはり、字数や時間の制限のためにユーモアを再現できなかった例である。しかし、私はこれで良いと考えている。というのも、この翻訳でユーモアを訳すという「目的」は果たしているからである。制限のためにうまくユーモア効果を再現できていないとしても、観客はユーモアを訳した翻訳であると判断することはできるだろう。このようにユーモア翻訳においては同じようなユーモア効果を再

現することが大切であるが、それがうまくできない場合にはユーモアを訳すという「目的」さえ果たしていれば良いのかもしれない。本研究では、不十分ながらもその「目的」を果たすために結束性を用いていることを示せたのではないだろうか。

しかし本論では分析した量が不十分な上に、ユーモアの定義も曖昧であった。視聴覚翻訳研究についてもあまり触れることもできなかったもので、これらは今後の課題としたい。また、本論を通して AVT は目的、もしくは「スコpos」と関わっているように思えた。今後はその方面から研究をすることもできるかもしれない。このような点を今後の課題として、今後も研究を進めていきたい。

【謝辞】本論文を執筆するにあたり、立教大学大学院の長沼美香子准教授、河原清志先生にお世話になりましたので、ここに感謝の意を表します。

.....
【著者紹介】若尾拓哉 (WAKAO Takuya) 立教大学院異文化コミュニケーション研究科博士前期課程在籍
.....

参考文献

- Asimakoulas, D. (2004). Towards a model of describing humour translation: A case study of the Greek subtitled versions of *Airplane!* and *Naked Gun*. *Meta*, 49(4), 822-842.
- Attardo, S. & Raskin, V. (1991). Script theory revis(it)ed: Joke similarity and joke representation model. *Humor*, 4(3/4). 293-347.
- Attardo, S. (2002). Translation and humour: An approach based on the General Theory of Verbal Humour (GTVH). In *The Translator: Studies in intercultural communication*, 8(2). 173-194.
- Baker, M. (1992). *In other words: A coursebook on translation*. London and New York: Routledge.
- Blum-Kulka, S. (1986). Shifts of cohesion and coherence in translation. In Venuti, L. (Ed.) *The translation studies reader*. (pp. 298-313). London and New York: Routledge.
- 藤濤文子 (2007). 『翻訳行為と異文化間コミュニケーション—機能主義的翻訳理論の諸相—』松籟社.
- Gambier, Y. (2003). Screen Tranadaption: Perception and Reception. In *The Translator: Studies in intercultural communication*, 9(2). 171-189.
- ハリデー, M. A. K. (2001). 『機能文法概説—ハリデー理論への誘い—』(山口昇・笈壽雄・訳). くろしお出版. [原著: Halliday, M.A.K. (1994). *An introduction to functional grammar*. (2nd ed.). London: Edward Arnold].
- ハリデイ, M. A. K.・ハサン, R. (1997). 『テキストはどのように構成されるか—言語の

- 結束性一』(安藤貞雄・多田保行・永田龍男・中川憲・高口圭轉・訳). ひつじ書房.
[原著: M.A.K. Halliday and Ruqaiya Hasan (1976). *Cohesion in English*. London: Longman].
- Hatim, B. & Mason, I. (1997). *The translator as communicator*. London and New York: Routledge.
- 井上宏 (2004). 『笑い学のすすめ』世界思想社.
- 稲生衣代 (2004). 「大学教育における「映像翻訳コース」の指導手法に関する研究」『通訳研究』第4号, 83-102頁. 日本通訳学会.
- Kachroo, B. (1984). Textual cohesion and translation. In *Meta*, 29(2). 128-134.
- Katori, Y. (2006). Translating cohesion in journalistic texts, between Japanese and English. In *Interpreting studies*, 6. 69-90.
- 香取芳和 (2009). 「日本語テキストの結束性から考える英日翻訳における視点の取り方、視線の向け方」『翻訳研究への招待』第3号, 51-64頁. 日本通訳翻訳学会.
- 北和丈 (2009). 「ユーモアの言語」斎藤兆史 (編)『言語と文学』(92-117頁). 朝倉書店.
- Latta, R. (1999). *The basic humor process: A cognitive-shift theory and the case against incongruity*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Lorenzo, L., Pereira, A. & Xoubanova, M. (2003). The Simpsons/Los Simpson: Analysis of an audiovisual translation. *The Translator: Studies in intercultural communication*, 9(2), 269-291.
- マンデイ, J. (2009). 『翻訳学入門』(鳥飼玖美子・監訳). みすず書房. [原著: Munday, J. (2008). *Introducing translation studies*. New York: Routledge].
- 大島希巴江 (1996). 『日本の笑いと世界のユーモア—異文化コミュニケーションの観点から』世界思想社.
- Pym, A. (2005). Explaining explicitation. In Károly, K. (Ed.) *New Trends in Translation Studies*. Budapest: Akademiai Kiado.
- Ritchie, G. (2004). *The linguistic analysis of jokes*. London: Routledge.
- 清水俊二 (1992). 『映画字幕は翻訳ではない』戸田奈津子・上野たま子 (編著) 早川書房.
- 戸田奈津子 (1994). 『字幕の中に人生』白水社.
- Simpson, P. (2003). *On the discourse of satire*. Amsterdam: John Benjamins.